

演技として取り組む集団行動の指導事例とその考察

—小学校高学年を対象に—

鈴木慶子

I. はじめに

近年、学校の運動会や体育祭の演目として、集団行動が注目されている。運動会や体育祭の花形演目といえ、これまでは組体操（組立体操）だったといえる。しかし、2015年に大阪市内の中学校で行われた体育祭の組体操の演目でつくった巨大なピラミッドが崩れ落ちる様子を撮影した映像が動画サイトに投稿されて以来、ニュース番組や新聞にも度々取り上げられ、社会的に注目された。スポーツ庁（2016）によれば、平成23年から26年度の間組体操（組立体操）による負傷者数は年間8,000件以上とされた。現在は専門家によって、指導法や危険な組体操（組立体操）が現場の先生に周知されつつあるが、学校現場では運動会や体育祭で児童生徒が披露する演目についての検討が、幾度もなされてきたであろう。

そこで、組体操（組立体操）に代わる演目として注目を浴びたのが集団行動である。馳浩前文部科学大臣は平成28年3月25日の記者会見において、「組体操に代わるとあえて言われれば、例えば集団行動、日本体育大学の集団行動というのは時々テレビで拝見しておりますが、大学生であそこまでできるとしたら、私は小学生や中学生でも、あそこまではいなくても一定程度練習すれば、十分に同様の教育効果を発揮することはできると思います」と発言しており、注目度の高さを伺うことができる。

さて、集団行動の歴史を遡ると、明治19年に学校令が制定され、その中で隊列運動が示されている。気をつけや休め、そして行進など、現在も学校体育の集団行動として取り組まれているものである。また1891年には、隊列運動は兵式体操とされた。松浪（1995）は「隊列運動が兵式体操と改

められたことは、単なる名称変更にとどまらない。集団訓練中心の隊列運動と、陸軍の『体操教範』の一部が、兵式体操の内容と考えられるからだ」と述べている。そして木下（2015）は、1964年の東京オリンピックを目前に集団行動の形骸化が鮮明になったとし、「1963年11月に『集団行動指導の手引き指導委員会』が、そのまとめを翌1964年7月と予定して草案に漕ぎ着けた」と記している。実際に1965年に「体育（保健体育）科における集団行動指導の手引き」が刊行されている。その後、國分（1987）によると「学習指導要領が再度にわたって改正され、また、学校からも集団行動の指導を効果的に推進するため、新しい『手引』を作成して欲しいという要望が多く寄せられるようになったことから、文部省（現文部科学省）は1987年3月に「体育（保健体育）科における集団行動指導の手引」を刊行した。そして1993年にも学習指導要領の改訂に合わせて、所要の改訂を行い、現在に至っている。その「体育（保健体育）における集団行動指導の手引（改訂版）」の第1章では、集団行動の指導の要点として、「(1) 集団の意義や必要性を理解させる」「(2) 集団行動の基本的な行動様式を身に付けさせる」「(3) 集団の約束やきまりを守って行動させる」「(4) 敏速・的確に行動させる」「(5) 互いに協力して自己の責任を果たさせる」「(6) リーダーの指示に従って行動させる」「(7) 安全に留意して行動させる」と記されている。そして、第2章では集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点、第3章では集団行動指導上の留意事項が詳しく載せられている。

「体育（保健体育）における集団行動指導の手引（改訂版）」の他に、集団行動の指導事例を全国に発信しているのが東京都八王子市立式分方小

学校(2014)の「みんなのできる!心がまとまる!集団行動の指導法」で、多くの指導事例や演技構成を紹介している。

しかしながら、演技として行う集団行動指導の実践を体育の授業として考察する書物や研究で発表されているものの数は、十分とはいえない。集団行動が運動会や体育祭で披露するための取り組みだとしても、体育として取り組むのならば、集団行動の「よい授業」を子どもたちに提供しなければならない。そこで、演技として取り組む集団行動の指導に関する一事例を検証し、集団行動の指導に関する課題を明らかにすることを目的とした。

II. 実践の様子とその考察

1. 対象の小学校と授業撮影について

今回対象としたのは東京都内の X 小学校で、オリンピック・パラリンピック推進事業の一環として筆者が集団行動の授業を行った。対象となる児童は X 小学校の5, 6年生合わせて43名だった。授業は2016年9月9日、1, 2時間目の授業時間を使って行った。時間はそれぞれ45分で業間の休憩は5分、そのため実施時間は90分だった。なお、対象となる小学校の校長には事前に本研究についての説明を行い、同意を得た上で撮影を実施した。

2. 指導概要

時間と期間記録と授業内容をまとめて授業場面を記録したものを整えたのが表1と表2である。

演技として取り組む集団行動の指導事例とその考察
 - 小学校高学年を対象に -

表1 期間記録のコーディングシート (1時間目)

0(分)	1	2	3	4	5	6	7						
期間記録	2	1	1	1	1	1	1						
授業内容	挨拶 担任の先生の話 講師への挨拶	講師の自己紹介			映像の音響調整	映像鑑賞 (日本体育大学集団行動のドキュメンタリー番組を12分に編集したもの)							
8	9	10	11	12	13	14							
期間記録	3	3	3	3	3	3	3						
授業内容													
15	16	17	18	19	20	21							
期間記録	3	3	3	3	3	3	3						
授業内容	集団行動の意義について				隊列づくり (2列横隊)	隊形の指示	整とん	整とんの方法についての説明	前へ ならえ				
22	23	24	25	26	27	28							
期間記録	4	1	4	1	4	1	4						
授業内容	「キビキビやろう」 前へならえ	休め・気をつけ・礼 休めの説明	通し番号および番号および番号の説明	番号及び通し番号 次の指示	番号及び通し番号 3の番号の説明	3列変換の説明 3の番号	周囲の友達と確認 3列変換の説明	3列変換 周囲の友達と確認	3列変換 2の番号の説明	4列変換の説明 2の番号	4列変換 4列変換の説明	「始めからやり直す」 4列変換	演技通し
29	30	31	32	33	34	35							
期間記録	4	4	4	1	1	1	1						
授業内容	密集隊形の説明	密集隊形に集まれ	両手間隔に開けの説明	両手間隔に開け	「ポイントや目印を探しましょう」	両手間隔に開け	密集隊形に集まれ	回れ右の説明	回れ右	回れ右の説明	回れ右	待機	密集隊形に集まれ 両手間隔に開け
36	37	38	39	40	41	42							
期間記録	4	4	4	4	1	1	1						
授業内容	回れ右 密集隊形に集まれ	「次いきます」 右向け右	右向け右の説明	右向け右	4列縦隊の整頓の説明	4列縦隊に整頓	行進の説明 歩きながら回れ右をする説明	歩きながら 回れ右	整頓・行進 回れ右	再度歩きながら 回れ右の説明	待機	歩きながら 回れ右	
43	44	45	46										
期間記録	2	1	1	4	4	4	4						
授業内容	待機	行進の説明	整頓行進	交差の説明			終わりの挨拶						

表2 期間記録のコーディングシート (2時間目)

0(分)	1	2	3	4	5	6	7
期間記録	2 2 2 1 1 2	2 1 1 2 2 4	4 1 1 1 1 1	1 1 1 4 4 1	2 2 2 4 4 1	4 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1
授業内容	整列	交差の説明 移動	棒の持ち方 棒の配布	整頓	交差の説明	交差	「もう一度やろう」 移動 整頓 交差に関する指導
8	9	10	11	12	13	14	
期間記録	2 2 2 1 4 4	1 2 2 2 4 4	4 4 4 4 1 2	1 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1	4 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1
授業内容	移動	交差に関する指導	交差	移動	基準の確認	交差	注目のできる隊形の説明
15	16	17	18	19	20	21	
期間記録	4 4 1 1 1 1	4 1 1 2 4 1	1 1 1 4 4 4	1 4 4 4 4 4	4 1 4 1 4 4	4 4 4 4 4 4	4 4 4 1 1 1
授業内容	注目のできる隊形に休め	注目のできる隊形を作る際のアドバイス	「演技の最初から復習します」	整頓	姿勢に関する指導	演技通し	「やり直します」 「落ち着いて」 演技通し
22	23	24	25	26	27	28	
期間記録	1 1 1 1 1 1	1 4 4 1 1 1	4 4 1 4 1 1	1 1 4 4 4 4	4 4 4 4 4 4	4 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1
授業内容		整頓	交差を始める際に	交差	注目のできる隊形に休めるための指導	演技通し	歩き方の指導 個人の仕草に関する指導
29	30	31	32	33	34	35	
期間記録	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 4 4	4 4 4 4 1 1	1 4 4 4 4 4	4 4 4 4 4 4	4 4 4 4 1 1
授業内容			移動	「あと2本通しましょう」	演技通し	「キヨロキヨロしないようにしよう」	演技通し
36	37	38	39	40	41	42	
期間記録	1 1 1 1 1 1	1 1 1 4 4 4	4 4 4 4 4 4	4 4 4 4 4 4	4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1
授業内容		密集隊形と両手間隔隊形に関する指導		通し演技			振り返りの言葉
43	44	45					
期間記録	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	1 3 3 3 2 2				
授業内容			児童代表の言葉	挨拶			

集団行動の授業の各場面にどれくらいの時間が費やされたかを算出するために、高橋（1994）による体育授業場面の期間記録法を用いて観察記録

を行った。この観察法は表3のように、授業場面を4つに区分して時系列に観察するものである。記録は高橋ら（2003）が作成したコーディングシ

演技として取り組む集団行動の指導事例とその考察
 —小学校高学年を対象に—

ートを用いて行った。このコーディングシートは、あらかじめ10秒単位で短い目盛りが、1分単位で長い目盛りが引かれている。コーディングシート上の期間記録と記された段には各授業場面のマークを記入し、集計の際は、クラス全体の生徒が教師の説明を聞いたりする「学習指導場面」を1、移動や準備後片付けなどの「マネジメント場面」を2、生徒同士の話し合いや学習カードの記入な

どをする「認知学習場面」を3、生徒が運動を行う「運動学習場面」を4とした。コーディングシート下段には、授業内容を具体的に記し、指導者の発言には鍵括弧をつけた。本授業では、はじめに導入として映像を観賞し、集団行動に取り組む意義を指導した後に、集団行動の演技構成に挑戦した。

表3 体育授業場面の期間記録法の観察カテゴリー（米村，2006）

カテゴリー	定義
体育的内容場面	学習指導場面 (I) ○ 教師がクラス全体の子どもを対象にして説明、演示、指示を与える場面 例・教師が学習目標、学習内容、学習方法等を説明する。 ・教師が演示をしながら技術解説をする。
	認知的学習場面 (A1) ○ 学習者が認知的な学習活動を行う場面 例・グループあるいはペアで学習に関する話し合いを行う。 ・ノートや記録用紙に学習のポイントや行い方、記録等を書き込む。
	運動学習場面 (A2) ○ 学習者が運動活動を行う場面 例・ウォームアップや主教材との関連で行われる予備的・補足的な運動を行っている。 ・個人的な技能発達を主な目標としたドリルや練習を行っている。
マネジメント場面 (M)	○ 上記以外の活動で、学習成果に直接つながらない場面 例・ある活動から他の活動へと場所を移動する。 ・授業の焦点となっている課題とは関わりのない活動を行っている。

コーディングシートの内容を詳しくみることにする。授業の導入で観賞した映像は、2014年1月12日にテレビ朝日で放送された「集団行動 2時間 SPECIAL」という番組で、12分間に編集したものを使用した。日本体育大学の集団行動に密着したドキュメンタリー番組で、年に数回放送されている番組である。集団行動の演技を披露している場面と指導者が出演していた場面を中心に編集を行った。

その後、集団行動の意義について3分30秒ほど指導した。その際に示したスライドは図1と図2の2枚である。指導者はこのスライドを示しながら、「例えばバスケットボールの授業でも、『前へならえ』や『気をつけ』、挨拶にかかる時間が短ければ短いほど、バスケットボールのゲームをする時間は長くなって楽しい時間が増えるよね」などと発言している。高田（1983）は集団行動の指導

をする上で第一に「必要性を理解させること」が大事だと述べている。近年の集団行動はパフォーマンスとして捉えられることが多いが、体育の授業における集団行動の意義を理解することで、普段の授業の学習効率も高めることができると考え、最初に集団行動の意義について指導した。

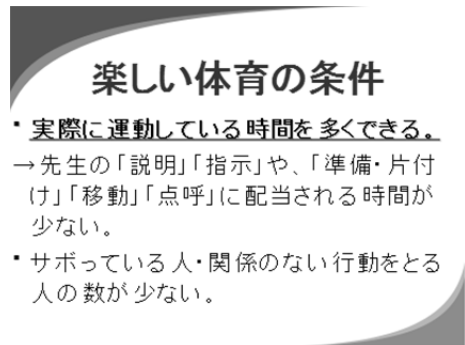


図1 授業の導入で児童に示したスライド1

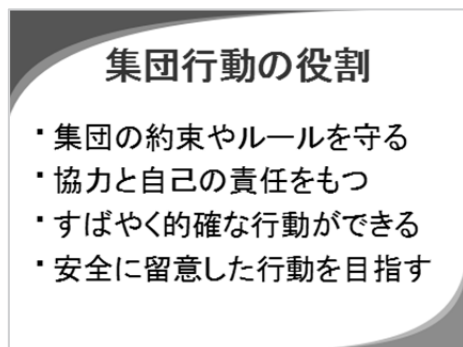


図2 授業の導入で児童に示したスライド2

そして今回小学生が挑戦した集団行動の演技構成は、表4に示したとおりである。

1	2列横隊に整とん
2	休め・気をつけ・礼
3	番号・3の番号・3列変換
4	2の番号・4列変換
5	密集隊形/両手間隔の隊形
6	回れ右
7	4列縦隊に整とん
8	行進
9	交差
10	注目のできる隊形に休め

表4 本授業で取り組んだ集団行動の演技構成

授業開始から18分後には、構成の指導を始めた。まず2列横隊に整とんし、休め・気をつけ・礼を行った。気をつけの姿勢の際に指導者は、「踵同士をつけてつま先の角度は60度くらい、拳2つ分」、そして「手の指先は閉じて、胸を張りましょう」との声掛けをした。礼を行うときは「いち、に、さん」と声をかけ、「さん」の時に顔を上げるようにした。

次に、列の増減に取り組んだ。番号・3の番号・3列変換と2の番号・4列変換は、文部省（1993）の体育（保健体育）における集団行動指導の手引（改訂版）の列の増減に則って行った。まず3列に変換するには、2列横隊で前列の児童が3の通し番号をかけ、2の番号がかかった児童のみ

が移動する。2の前列の児童は1の児童2人の間に入り、2の後列の児童は3の児童2人の間に入ると3列が完成する。そこから2列に戻るには、2の番号がかかった児童がそのまま下にいた位置に戻る。2列から4列に移動するには、2列横隊で前列の児童が2の通し番号をかけ、2の番号がかかった児童が1の児童の後ろにそれぞれ入る。2の前列の児童は1の前列の児童の後ろに、2の後列の児童は1の後列の児童の後ろに入る。列の増減は児童が仕組みを理解するまでにある程度の時間がかかるので、学習指導時間が長くなってしまった。3列に変換する場合と4列に変換する場合とで人によってすべきことが異なるので、一人ひとりが自分のすべきことに集中しなければ間違えやすい行動様式である。

密集隊形と両手間隔の隊形は、まず基準の児童を定め「Aさん基準、密集隊形に集まれ」「Bさん基準、両手間隔に開け」などと指示の言葉を出し、「いち、に、さん、し、ご」と掛け声を出し、「ご」のタイミングで密集隊形や両手間隔の隊形が完成することを目標にさせた。両手間隔の隊形になった際には方向転換の方法である回れ右の指導と実践も行った。回れ右については体育（保健体育）における集団行動指導の手引（改訂版）に記載されている方法を2回連続で、そして、筆者が日本体育大学の集団行動で行っていた2種類の回れ右を指導し、演技構成の中では4回回れ右をすることとした。

2時間目の授業に入ってから、行進の実践に入った。体育（保健体育）における集団行動指導の手引（改訂版）では、左足から踏み出して歩くことが示されており、X小学校が普段から左足から歩いていたことから、最初に出す足を左で統一した。腕は大きく振り、特に後ろ方向に大きく振ることを意識するように指示した。また、4列縦隊で歩いて途中で曲がる際は、内側の人は外側の人を4歩程度待って横の列も揃えるように指導した。

2時間目では始めから群と群が行進しながらぶつからずに突き進む交差に挑戦した。交差をする

演技として取り組む集団行動の指導事例とその考察
—小学校高学年を対象に—

際は2群に分かれさせ、4列縦隊の前半のグループと後半のグループに分かれて交差を行った。最初に児童は棒を持って列を調整しながら突き進む経路を確認した。それを3回ほど繰り返したあと、棒なしで取り組んだ。列は乱れるものの数分で児童たちはぶつからずに交差をしながら行進するこ

とができるようになった。

最後に注目のできる隊形をつくり、集合写真を撮るような形で演技構成を締めくくった。「注目のできる隊形に休め」との号令がかかったら、「いち、に、さん」の「さん」のタイミングでそれぞれの姿勢を完成させるよう指示した。



図3 2列横隊



図4 両手間隔に開いた様子



図5 児童が交差に挑戦する様子1



図6 児童が交差に挑戦する様子2



図7 注目のできる隊形

今回の X 校での実践における体育授業場を期間記録法によって観察した結果は、図8のとおりである。授業全体を通して学習指導場面の割合が多くなった。本授業の目標の一つに集団行動の演技を完成させることを掲げていたため、集団行動技術指導や演技の構成指導のため、学習指導場面に1時間目は43%、2時間目は51%の時間を割いた。高橋ら（2010）によれば、よい体育授業のための基礎的条件として、「子どもたちが評価する授業は、学習従事時間が十分確保されているということである」と述べている。具体的には「教師の『インストラクション（説明，指示，演示）場面』や『マネジメント（準備，後片付け，移動，待機）場面』に配当される時間が少ないこと」「体育の主要な授業場面のうち、『運動学習時間』に配当される時間量が多い」ことを挙げている。そのことから、もし単元で集団行動に取り組む場合は、徐々に学習指導の時間を短くして、運動学習や認知学習の時間を増やす必要があると考えられる。

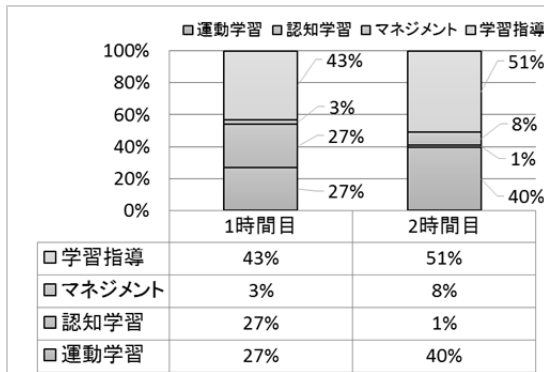


図8 X 小学校の期間記録法による体育授業場面の記録

Ⅲ. まとめ

高橋ら（2011）は、よい体育授業の基礎的条件として、学習の規律が確立していることを掲げ、「よい体育授業を観察していると、気持ちのよほど授業が滑らかに進行していく。そこでは、マネジメントに関わった説明や指示，相互作用といった教師行動がほとんど見られない。マネジメントに関わった約束事が単元はじめに取り決められていて、子どもたちはこの約束事にしたがって行動しているためである」と述べている。

運動会や体育祭の演目が組体操（組立体操）から集団行動に代わったとしても、教師の教材研究や指導の工夫が必要なことに変わりはない。同じことを繰り返し、ただ歩いているだけの授業になってしまわないように、集団行動も他の教材と同じように工夫を凝らして指導しなければならないのではないか。本事例は2コマのみの授業のため、学習に従事しないオフタスクの児童は見受けられなかった。しかし単元として集団行動に取り組む際、例えば運動会や体育祭の演目として集団行動に取り組む際は、学習計画に一層の工夫が必要になる。

最後に、X 小学校の副校長先生が授業後に児童が書いたという感想文を送ってくださった。これらの感想文をみると、最初に集団行動のドキュメンタリー番組の映像を観賞したことで、集団行動に関する興味や関心が湧いていることや、集団行動の様々な行動様式を習得して自信を持っている様子がわかる。このことから、運動会や体育祭で集団行動の演目に取り組む価値はあるのではないかと。

演技として取り組む集団行動の指導事例とその考察
 —小学校高学年を対象に—

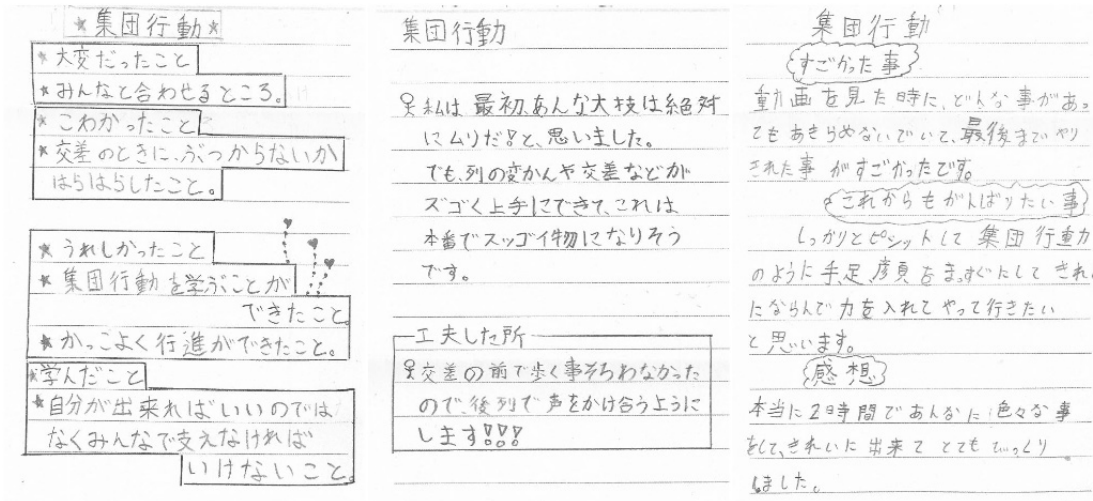


図9 児童が書いた感想文

IV. 参考文献

文部科学省 (2016) 馳浩文部科学大臣記者会見録 (平成28年3月25日). http://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/1368946.html, (参照日 平成28年3月14日).

文部省 (1993) 学校体育実技指導資料第5集体育 (保健体育) における集団行動指導の手引き (改訂版).

高橋健夫 (1994) 体育の授業を創る. 大修館書店, pp.235-242.

高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖 (2011) 新版体育科教育学入門. 大修館書店, pp.48-53.

高橋健夫 (2011) 体育授業を観察評価する. 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント. 大修館書店, pp.36-39.

高田典衛 (1983) 集団規律・集団行動の必要性と教え方. 明治図書出版株式会社, pp.134-139.

木下秀明 (2015) 体操の近代日本史. 不昧堂書店, p.270.

松浪稔 (1995) 明治期における小学校体操科の内容に関する研究: 第3次小学校令 (明治33年) を中心にして. 日本大学教育学会教育學雑誌 29(0). pp.109-124.

東京都八王子市立式分方小学校・編著 (2014) みんなでできる!心がまとまる!集団行動の指導法. 小学館.

スポーツ庁 (2016) 組体操等による事故の防止について <http://www.pref.nara.jp/secure/156465/%E3%80%90%E5%88%A5%E6%B7%BB%E5%86%99%E3%81%97%E3%80%91%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%84%E5%BA%81%E4%BA%8B%E5%8B%99%E9%80%A3%E7%B5%A1.pdf>, (参照日 平成28年3月16日).